

細長くなつてその両端が尖つたもので、これをウサギツユクサ(福原)という、學名は *Commelina communis* f. *miranda* Hiyama とする。もと福原義春氏が芝白金から野生品を持ち歸えたものであるという。

*Commelina communis* L. forma *miranda* Hiyama, n. f.

Petalis 2 posticis ellipticis vel oblongis utrinque acutis 10-15 mm longis 5-6 mm latis dilutiuscule violaceo-coeruleis.

Hab. Hondo: Tokyo, cult. (Y. Fukuhara, Sept. 1952 —in Herb. Nat. Sci. Mus. Tokyo).

○シロバナオオボウシバナ 栽培のオオボウシバナの白花品であるシロバナオオボウシバナには學名が二つばかり既にあるが、どれも命名規約に適合しない。津山氏の學名は *C. communis* var. *angustifolia* f. *leucantha* Nakai の存在によつて用いられない。そこで新に *Commelina communis* var. *hortensis* f. *candida* Hiyama と定める。

*Commelina communis* L. var. *hortensis* Makino forma *candida* Hiyama, n. n.

*Commelina communis* var. *hortensis* f. *leucantha* Tuyama in Shigenkagaku-Kenkyūsho-Ihō 11:6 (1948).

Nom. jap. Shirobana-ōbōshibana (1938), Shiro-ōbōshibana (1948).



*Commelina communis*  
f. *miranda* Hiyama  
(ウサギツユクサ)  
[やや拡大]

○石川縣のヒュウガミズキ自生地(代崎良丸) Yoshimaru SHIROSAKI: Home of *Corylopsis pauciflora* in Ishikawa Pref.

本邦ではヒュウガミズキ *Corylopsis pauciflora* Sieb. et Zucc. の自生は從來、但馬、丹後、丹波とされ、とくに丹後の大江山麓、宮津の杉山峯附近に著しく所在していることが植物研究雜誌 5 卷 5 號と 11 號に報告されている。筆者は昭和 11 年 5 月、石川縣能美郡大杉谷村波佐谷で開花したものを採集、同 26 年 4 月、小松市馬場町から江沼郡那谷村菩提へ山越して採集した際に、この一帯に著しい自生を見ることが出来た。翌 27 年 5 月江沼郡東谷口塔尾から舟見山、同郡那谷村瀧ヶ原にかけても發育良好なものを觀察した。東谷口村から舟見山(海拔 478 米)へ登山道の路傍一帯に自生しているものは 1~3 尺までのもの、中腹ではもっともよく繁茂しており、最大と思われるものの徑 4 分高さ 6 尺を測定する。3~4 尺が普通。頂上附近には見つからず、ここから下山して那谷村瀧ヶ原では農道の傍には著しき自生あり、村民に無造作に鎌で刈り取られ、また鋏で打ちかかわれている状態が歴然としている。ここでは 2~3 尺が普通で 4 尺のものもある。菩提では南面山麓によく繁茂し、下山には足まといする程であり、小指大で 3~4 尺までである。筆者が現に栽植している菩提産は 4 尺にのび、瀧ヶ原産は 2.5 尺である。これらの産地の大杉谷村から那谷村、舟見山、東谷口村は一連の低山嶺であり、第三紀の石英粗面の地質である。分布上注目すべき新産地として報告する。(石川縣小松市教育研究所)